

## 8 学びの保障と秋季入学の導入に関する提言

新型コロナウイルス感染症の影響で休校が長期にわたっている状況は、特に低学年の子どもたちを中心に、基礎的な能力の習熟や維持を図るため適宜練習の機会を設けることが必要な教科等への影響などにより、子どもたちの学力低下や格差を助長する可能性が高く、必要な対策を早急に検討することが必要である。

一方、秋季入学に関しては、グローバル社会に対応した教育の変革を進める観点等からも重要な課題であるため、全国知事会として、これまで政府に国民的な骨太の議論を行うことを求めてきたところであるが、新型コロナウイルス感染症による影響や今後の見通しは常に変化しており、現時点では、全国で緊急事態宣言が解除され、学校が再開していく中で、夏季休業期間の短縮等で必要な教育機会を確保することが可能との意見が学校現場では多くなっている。また、教育の国際化のためには、入学時期も一つの要素であるものの、留学のための奨学金充実など他の要素が重要との指摘も多い。

こうした状況に鑑み、政府に対し、以下の点について対応を求める。

### 1 新型コロナウイルス感染症影響下における学びの保障について

#### (1) 入試や今年度の教育カリキュラムの在り方

長期にわたる学校の臨時休業などの影響を受けている子どもたちのため、大学入試日程等今後の学びのスケジュールを早期に確定するとともに、夏季休業期間の短縮や土日の補習等に取り組む学校に対する必要な支援を行うこと。

また、教育課程の編成に関して、各学校の参考となる具体的なモデルを示すこと。

#### (2) 教育の情報化

今後更なる一斉臨時休業や災害時等にあっても学びを保障できるよう、また、ビッグデータの活用により、教育の質の向上を図ることができるよう、小・中学校のみならず高等学校等も含め、ICTを活用した家庭等での学習環境整備を進めるなど徹底した教育の情報化を進

めること。

また、その財源についても実効性ある支援を行うこと。

## 2 秋季入学の導入等について

### (1) 秋季入学の検討継続

本格的な秋季入学の導入は、教育のみならず社会・経済等の大きな変革につながりうるものであり、今回、国民的な議論を行う土壌ができたことから、グローバル化に対応した教育や学びの個別最適化を進めるといふ目的のもとで、実践的な英語教育や単位互換の推進、奨学金の充実などとあわせて、各界各層を交えた丁寧な検討を進め、その結論を得ること。

### (2) 大学について

大学については、新型コロナウイルス感染症が、総合型選抜・学校推薦型選抜等にも影響を与えていること、4月入学と9月入学との併用等の形で既に秋季入学が行われていることなどから、秋季入学の拡大について、政府として検討すること。

また、そのために必要となる入試時期の変更等、大学が行う取組について政府として積極的に支援すること。

あわせて、秋季入学の拡大に伴う就職・採用時期の柔軟化等についても一層の推進を検討すること。

### (3) 高等学校について

高等学校においては、大学が講じる取組とあわせて、修得主義の考え方をより重視し、標準授業時数や1単位あたりの授業時数、修学年限などの柔軟化により、学習期間の弾力化や学びの個別最適化を推進すること。